

紙版 **ハコブネ×ブックス** vol.28

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。



**ラブリー!**

作者 吉田桃子  
出版社 講談社  
発行 2017年6月  
ISBN 978-4062206020

review



特集

**見た目が肝心**

人は見た目が肝心です。子どもたちが見た目ばかりを気にかける**ルッキズム**(外見至上主義)に陥りがちだと懸念されている昨今ですが、見目良い外見が世の中でプラスに働くことは否定できません。問題は見た目だけを評価して、**大切なものを見失う**ことです。しかも、自分がどう思うのかよりも、**他の人にどう思われるのか**を重視してしまふ。上辺だけしか見ない人たちの価値観なんてどうだった方がいいのです。それでも人は、自分の見た目に自信を持って、**目に気が弱**になったり、大切な人の見た目がどう思われるのかを気にしてしまふものです。物語は、主人公たちを見た目の問題で**さんざん悩ませた挙句**、この壁を突き破り、蹴散らしていく痛快な展開を迎えます。見た目は肝心ですが、**でも、何がクールかなんて、自分で決めれば良いこと**なのです。覚悟を決めたカッコいい主人公たちと、ここで出会ってください。

十四歳の中学二年生男子にして、自称天才映画監督、井出拓郎。青少年映像コンクールで入賞を果たし、有頂天になったものの、審査員の毒舌で有名な映画監督に『主演の女優優がすばらしかった』と激賞され、この講評は主演の涼子に隠さなければならぬと心に誓います。美女である亜美菜ではなく、ブスと呼ばれ、見下されがちな涼子は何故、主役にしたのか。いつも口の悪い男子生徒たちから酷い言葉を投げつけられている涼子を選んだ理由を、拓郎ははつきりと言葉にできません。どうして、**人を見た目で判断する**のか。世の中、見た目じゃないのかと拓郎は悩み、考え続けます。涼子のことを好きになっっている**自分の心の真実**に少しずつ近づいているのに、本人はなかなかそこに気づかないもどかしさこそが魅力です。



**エレナーとパーク**

Eleanor&Park.

作者 レインボー・ローウェル  
翻訳者 三辺律子  
出版社 辰巳出版  
発行 2016年1月  
ISBN 978-4777816187

review



高校のスクールバスで、パークの隣の席に座った転校生のエレナーは、赤毛で大柄で、ぶかっようなシャツを着た、**さえない見た目の**女の子でした。開くのは面倒だとパークは思います。毎日、エレナーは隣の席に座るもの一言も話しかけてきません。いつも同じ服を着ている**みっともない子**であるエレナーは学校でからかわれてばかり。それでも授業で美しく詩を朗読する声や、その辛辣な物言いにパークは惹かれていきます。**クールな外見で人気もある**パークに警戒心を抱いていたエレナーも、次第に彼に惹かれていきまふ。二人は**大いに戸惑い続けます**。それでも、エレナーをからかう同級生の顔面に、パークが見事なキックを見舞う頃には、その思いは**確信に変わって**いました。みっともないエレナーを、パークは完全に好きになつていたので。溢れる思いの結晶のような愛おしいYA作品です。



**ゴリラとわたし**

APSTJÄRNAN.

作者 フリーダ・ニコルソン  
翻訳者 よこのなな  
出版社 岩波書店  
発行 2021年4月  
ISBN 978-4001160253

review



親のいない子どもたちの施設「ヨモギギク園」で暮らす九歳の女の子ヨナは、手を洗うのが苦手で、園長に叱られてばかりいました。ある日、子どもを引きたいと、身長が2メートルもあるゴリラと名乗る**ゴリラの女性**が園にやってきました。汚い格好のヨナを気に入ったゴリラは彼女を養子に迎えます。古物商を営むゴリラの仕事を手伝ううちに、ヨナも次第に打ち解けていきます。一緒に町を歩けば、**目を背けられたり、ジロジロと見られたり**、ゴリラは人から冷たい態度を取られまふ。ゴリラに、ちゃんとした格好をして欲しいと思っていたヨナも、**いつも自分らしくいる**ゴリラに、みんなの見方が変われば良いのだと思うようになりまふ。**好意的なまなざしを向けられなくても**、人は幸せになれる。上辺だけではわからな大切なことが、ここに輝きまふ。



**見た目レンタルショップ 化けの皮**

作者 石川宏千花  
出版社 小学館  
発行 2020年11月  
ISBN 978-4092893054

review



人の**見た目を**レンタルしてくれる店、それがレンタルショップ「化けの皮」です。ここでは自分が希望する見た目をした店員と、身体と心を入れ替えることで、一定時間、**他の人間の**外見を装うことができます。この店のお客さんたちは、**自分の見た目ではできないことがある**という切実な思いを抱いています。地味な外見をした女子高生は、美少女の見た目でお洒落な店に行こうとします。ファストフード店で騒ぐ女子高生たちを注意するために、**かっこいい**外見を必要としている十六歳の少年もいます。もともと、思ったようには物事は進まず、一方で思わぬ気づきを得ることになります。**見た目で判断**されるという思い込みで、人は自分の世界を狭くしています。人の心を解放するこの物語は、**見た目だけにしか価値を置けない人間の見苦しさ**や**みっともなさ**を教えてくださいまふ。

特集

見た目が肝心



エヴリデイ (デイヴィッド・レヴィサン) 小峰書店 2018年

毎朝、違う人の身体で目覚めて一日を過ごし、翌日はまた別の人の身体に移る主人公は、ただ**意識だけの存在**です。醜い外見の日もあれば、美しい外見の日もある。外見は借り物であり、**他人からどう見られる**かなど、どうでもいいのです。人間の主体性とは何かを考えさせる**見た目の物語**もあります。

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.28

2022年7月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系社員。趣味で児童文学紹介サイト **ハコブネ×ブックス** (非営利) を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。



Twitter 連携しています。 @tomoostretch